

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

静岡県 掛川市

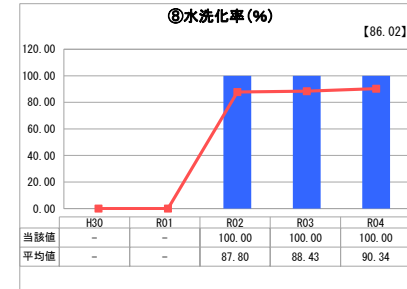
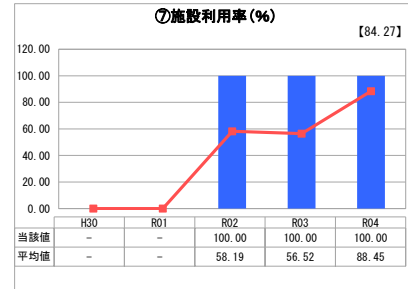
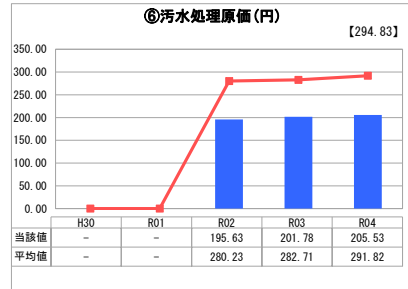
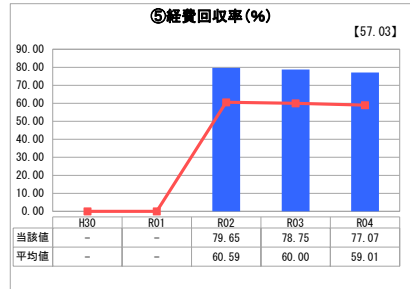
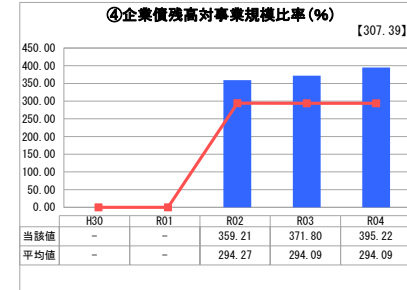
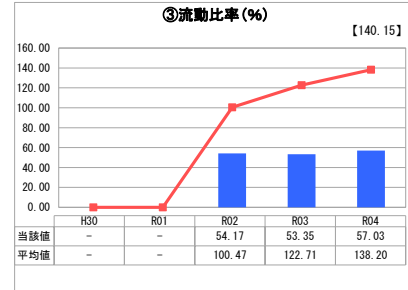
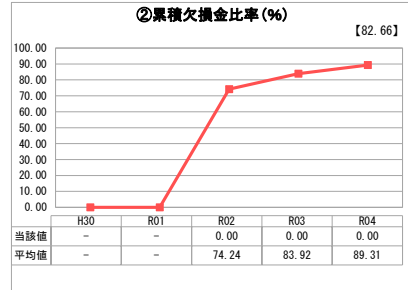
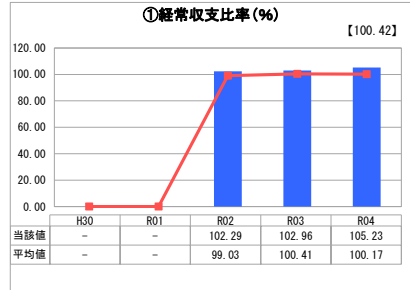
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	39.05	5.93	100.00	3,520

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
115,873	265.69	436.12
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
6,849	26.09	262.51

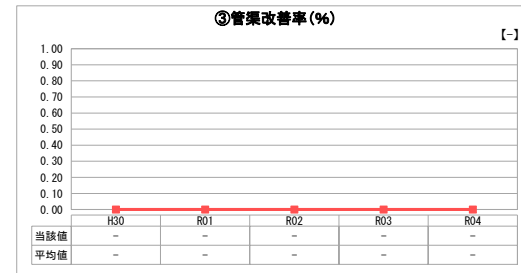
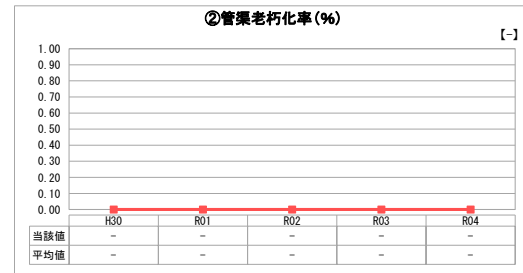
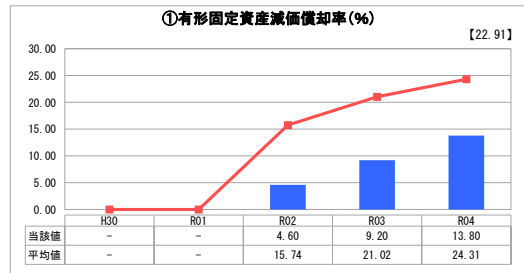
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

当市の特定地域生活排水処理事業は、令和2年4月に地方公営企業法を適用し、公営企業会計に移行しました。

経営の健全性において、①経常収支比率は100%を超えており、収支の均衡は保たれていますが、実態は一般会計繰入金に大きく依存しています。③流動比率は100%を大きく下回っていますが、流動負債の半分弱が企業債であり、将来返済の原資を一般会計繰入金から得ることが予定されているものです。④企業債残高対事業規模比率は、平均値よりも高くなっていますが、企業債元利償還額は令和4年度に最大となるものの、平成28年度の事業完了により今後は整備に係る借入の発生はないため、使用料収益の確保に努め、着実に債務残高を減らしていきます。⑤経費回収率は類似団体平均より高い回収率となっていますが、今後は経年劣化による修繕等で維持管理経費の増大が危惧されるため、より一層の経費削減に取り組んでいく必要があります。⑥汚水処理原価は類似団体平均より低い数値となっていますが、引き続き維持管理経費の削減に取り組む必要があります。

経営の効率性において、⑦施設利用率及び⑧水洗化率は、浄化槽市町村設置推進事業により設置した全てで使用されているため100%です。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は、昨年度と比較し、有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価に大きな変化はないため、増加率は昨年と同率です。今後、この数値は減価償却を重ねることにより上昇します。老朽化した施設改善は現在まで行っていませんが、今後検討して必要があると考えています。

## 全体総括

令和2年度に地方公営企業法を全部適用してから3年が経過し、経営成績や財務状況等の実態把握をすることで課題が見えてくるようになりました。

今後は財務状況を踏まえた上で、維持管理費の削減と使用料水準の検証に取り組み、さらには年数経過による施設の更新等を勘案しつつ、持続可能な経営ができるよう努める必要があります。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。